

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2015年12月28日から2025年12月15日までです。	
運用方針	日本連続増配成長株マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）を通じて、日本の連続増配銘柄（一定期間にわたり1株当たりの普通配当金が毎期増加している企業の株式をいいます。）に投資を行います。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	日本連続増配成長株マザーファンド	日本の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
投資制限	当ファンド	マザーファンドの受益証券への投資割合には制限を設けません。 株式への実質投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
	日本連続増配成長株マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	年4回、3月、6月、9月および12月の各月の15日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

運用報告書（全体版）

日本連続増配成長株オープン

第11期（決算日 2018年9月18日）

第12期（決算日 2018年12月17日）

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。
皆様の「日本連続増配成長株オープン」は、2018年12月17日に第12期決算を迎えましたので、過去6ヵ月間（第11期～第12期）の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社クライアント・サービス部へ
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214（営業日の9:00～17:00）

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

○最近10期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	標準価額		東証株価指数 (TOPIX)		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
		税金配分	期末騰落率	(参考指数)	期騰落率			
3期(2016年9月15日)	円 8,971	円 0	% △ 2.6	ポイント 1,301.11	% 1.9	% 92.1	% -	百万円 12,753
4期(2016年12月15日)	9,962	0	11.0	1,542.72	18.6	93.8	-	12,577
5期(2017年3月15日)	10,003	280	3.2	1,571.31	1.9	93.1	-	10,348
6期(2017年6月15日)	10,008	510	5.1	1,588.09	1.1	92.9	-	8,394
7期(2017年9月15日)	10,009	240	2.4	1,638.94	3.2	92.4	-	7,727
8期(2017年12月15日)	10,002	990	9.8	1,793.47	9.4	91.9	-	7,798
9期(2018年3月15日)	9,935	0	△ 0.7	1,743.60	△ 2.8	91.4	-	10,068
10期(2018年6月15日)	10,003	570	6.4	1,789.04	2.6	92.7	-	10,018
11期(2018年9月18日)	9,909	0	△ 0.9	1,759.88	△ 1.6	91.5	-	11,569
12期(2018年12月17日)	8,957	0	△ 9.6	1,594.20	△ 9.4	91.4	-	10,834

(注) 基準価額および分配金(税引前)は1万口当たり、基準価額の騰落率は分配金(税引前)込み。

(注) 東証株価指数(TOPIX)は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、株式組入比率および株式先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 株式先物比率=買建比率-売建比率。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

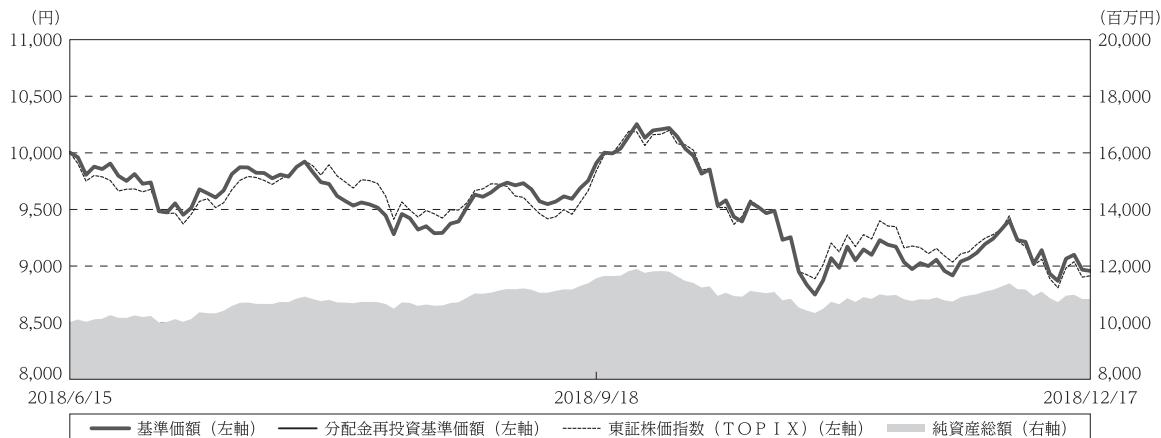
決算期	年月日	基準価額		東証株価指数 (TOPIX)		株式組入比率	株式先物比率
		騰落率	騰落率				
第11期	(期首) 2018年6月15日	円 10,003	% -	ポイント 1,789.04	% -	% 92.7	% -
	6月末	9,739	△2.6	1,730.89	△3.3	92.0	-
	7月末	9,741	△2.6	1,753.29	△2.0	91.9	-
	8月末	9,737	△2.7	1,735.35	△3.0	92.1	-
	(期末) 2018年9月18日	9,909	△0.9	1,759.88	△1.6	91.5	-
第12期	(期首) 2018年9月18日	9,909	-	1,759.88	-	91.5	-
	9月末	10,198	2.9	1,817.25	3.3	92.4	-
	10月末	9,070	△8.5	1,646.12	△6.5	90.7	-
	11月末	9,322	△5.9	1,667.45	△5.3	91.1	-
	(期末) 2018年12月17日	8,957	△9.6	1,594.20	△9.4	91.4	-

(注) 騰落率は期首比。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2018年6月16日～2018年12月17日)



第11期首：10,003円

第12期末：8,957円 (既払分配金(税引前)：0円)

騰落率：△ 10.5% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、東証株価指数(TOPIX)です。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、作成期首(2018年6月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象である「日本連続増配成長株マザーファンド(以下、マザーファンドといいます。)」における主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・業種配分では、建設業、ゴム製品、陸運業が基準価額にプラスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、ドンキホーテホールディングス、ショーボンドホールディングス、タカラバイオなどが基準価額にプラスに寄与しました。

(主なマイナス要因)

- ・業種配分では、小売業、電気機器、サービス業などが基準価額にマイナスに影響しました。
- ・個別銘柄では、ZOZO(旧スタートトゥデイ)、シスメックス、日本M&Aセンターなどが基準価額にマイナスに影響しました。

投資環境

(2018年6月16日～2018年12月17日)

国内株式市場は、作成期首から2018年9月中旬にかけては、米中貿易摩擦への警戒や国内企業の業績拡大に対する期待などが交錯し、一進一退の展開となりました。その後、10月初旬にかけては、米国における良好な景気指標の発表などを背景に海外株式市場が上昇したことや、為替市場において円安ドル高が進行し国内企業の業績上方修正への期待が高まったことなどから、一時上昇しました。しかし、作成期末にかけては、米中貿易摩擦の激化による世界経済への悪影響が意識されるなか、投資家のリスク回避姿勢が強まり、世界的に株式市場が下落したことを受けて、国内株式市場も下落しました。

当ファンドのポートフォリオ

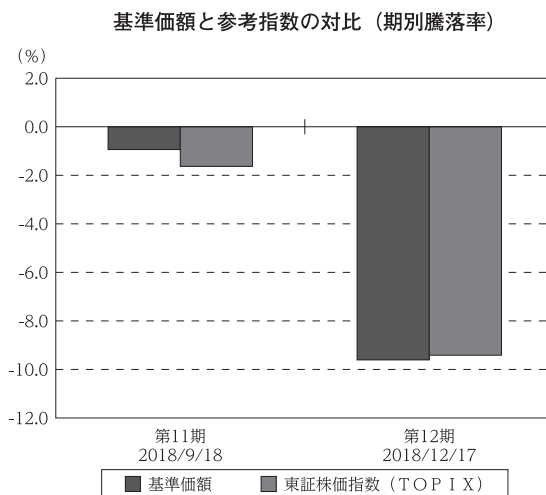
(2018年6月16日～2018年12月17日)

当ファンドの運用はマザーファンドを通じて行いました。マザーファンドの運用につきましては、連続増配期間の長さ、時価総額、信用リスク、流動性等を考慮してユニバースを構築し、その中から、成長性や連続増配の持続可能性等を勘案しポートフォリオを構築しました。当作成期は、猛暑による恩恵が期待されると考えた富士通ゼネラルや株価下落で配当利回りなどの株価指標面での投資魅力が高まったと判断した日本たばこ産業などを新規に組み入れた一方、プライベートブランドの立ち上がりや株式市場での期待を下回り成長期待が後退すると考えたZOOやガバナンスを巡る問題で先行き不透明感が強まったと判断した日産自動車などを売却しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2018年6月16日～2018年12月17日)

当ファンドは特定のベンチマークを設けておりませんが、基準価額の騰落率は、参考指数としている東証株価指数(TOPIX)の騰落率を0.4%上回りました。詳細につきましては前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。



(注) 基準価額の騰落率は分配金(税引前)込みです。

(注) 参考指数は、東証株価指数(TOPIX)です。

分配金

(2018年6月16日～2018年12月17日)

当ファンドは年4回、3月、6月、9月および12月の各月の15日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象収益とします。分配金額は、分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。

当作成期中の分配につきましては、第11期と第12期の決算時は基準価額水準等を勘案し、見送りとさせていただきます。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項 目	第11期	第12期
	2018年6月16日～ 2018年9月18日	2018年9月19日～ 2018年12月17日
当期分配金	—	—
(対基準価額比率)	—%	—%
当期の収益	—	—
当期の収益以外	—	—
翌期繰越分配対象額	247	252

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

国内株式市場は、景気の先行きや企業業績見通しの下振れ懸念などが高まる中、当面、値動きの荒い不安定な展開になると想定します。一方、株式需給面では日銀の上場投資信託（ETF）買入れや上場企業による自社株買いなどに支えられると予想されるため、国内株式市場は値動きが荒い展開が一巡し、投資家心理が落ち着いた後は、反発をうかがう展開になると考えます。

当ファンドの運用は、マザーファンドを通じて行ってまいります。マザーファンドの運用につきましては、連続増配期間の長さ、時価総額、信用リスク、流動性等を考慮してユニバースを構築し、その中から、成長性や連続増配の持続可能性等を勘案しポートフォリオを構築します。個別銘柄につきましては、相対的に業績推移に安心感のある銘柄の中から、株価下落で割安感が強まっていると考えられる銘柄を買い付けていく方針です。また、決算などで配当金の据え置きや減額を発表した銘柄につきましては速やかに売却する方針です。

※文中の投資行動は、個別銘柄の売買等いかなる投資行動も推奨するものではありません。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2018年6月16日～2018年12月17日)

項 目	第11期～第12期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	76	0.788	(a) 信託報酬＝作成期間中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(37)	(0.383)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(37)	(0.383)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(2)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	11	0.114	(b) 売買委託手数料＝作成期間中の売買委託手数料÷作成期間中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(11)	(0.114)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.006	(c) その他費用＝作成期間中のその他費用÷作成期間中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、金銭信託支払手数料
合 計	88	0.908	
作成期間中の平均基準価額は、9,634円です。			

(注) 作成期間中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2018年6月16日～2018年12月17日)

○売買及び取引の状況とは、ファンドが購入・売却した有価証券の数量および金額です。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	第11期～第12期			
	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
日本連続増配成長株マザーファンド	千口 1,609,833	千円 2,054,000	千口 175,422	千円 240,000

(注) 単位未満は切捨て。

○株式売買比率

(2018年6月16日～2018年12月17日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	第11期～第12期	
	日本連続増配成長株マザーファンド	
(a) 当作成期中の株式売買金額	13,966,327千円	
(b) 当作成期中の平均組入株式時価総額	14,859,706千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.93	

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2018年6月16日～2018年12月17日)

利害関係人との取引状況

<日本連続増配成長株オープン>

該当事項はございません。

<日本連続増配成長株マザーファンド>

区分	第11期～第12期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 11,284	百万円 4,682	% 41.5	百万円 2,681	百万円 704	% 26.3

平均保有割合 66.8%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

日本連続増配成長株オープン

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	第11期～第12期
売買委託手数料総額 (A)	12,519千円
うち利害関係人への支払額 (B)	4,504千円
(B) / (A)	36.0%

(注) 売買委託手数料総額は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

○組入資産の明細

(2018年12月17日現在)

親投資信託残高

銘 柄	第10期末	第12期末	
	口 数	口 数	評 価 額
日本連続増配成長株マザーファンド	千口 7,236,637	千口 8,671,048	千円 10,421,732

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2018年12月17日現在)

項 目	第12期末	
	評 価 額	比 率
日本連続増配成長株マザーファンド	千円 10,421,732	% 95.6
コール・ローン等、その他	478,393	4.4
投資信託財産総額	10,900,125	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第11期末	第12期末
	2018年9月18日現在	2018年12月17日現在
	円	円
(A) 資産	11,647,624,065	10,900,125,945
コール・ローン等	519,481,775	478,393,274
日本連続増配成長株マザーファンド(評価額)	11,128,142,290	10,421,732,671
(B) 負債	78,542,612	65,992,795
未払解約金	35,093,418	23,162,108
未払信託報酬	43,147,088	42,532,754
未払利息	828	970
その他未払費用	301,278	296,963
(C) 純資産総額(A-B)	11,569,081,453	10,834,133,150
元本	11,674,830,562	12,095,858,392
次期繰越損益金	△ 105,749,109	△ 1,261,725,242
(D) 受益権総口数	11,674,830,562口	12,095,858,392口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,909円	8,957円

(注) 純資産総額が元本総額を下回っており、その差額は第11期105,749,109円、第12期1,261,725,242円です。

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、第11期0.9909円、第12期0.8957円です。

(注) 当ファンドの第11期首元本額は10,015,849,171円、第11～12期中追加設定元本額は3,914,001,261円、第11～12期中一部解約元本額は1,833,992,040円です。

○損益の状況

項 目	第11期		第12期	
	2018年6月16日～ 2018年9月18日		2018年9月19日～ 2018年12月17日	
		円		円
(A) 配当等収益	△	78,620	△	75,593
受取利息		278		421
支払利息	△	78,898	△	76,014
(B) 有価証券売買損益		10,198,118	△1,041,521,486	
売買益		24,947,088		39,584,941
売買損	△	14,748,970	△1,081,106,427	
(C) 信託報酬等	△	43,455,783	△	42,836,674
(D) 当期損益金(A+B+C)	△	33,336,285	△1,084,433,753	
(E) 前期繰越損益金		68,210,788		32,048,037
(F) 追加信託差損益金	△	140,623,612	△	209,339,526
(配当等相当額)	(219,547,530)	(236,794,081)
(売買損益相当額)	(△)	360,171,142)	(△)	446,133,607)
(G) 計(D+E+F)	△	105,749,109	△1,261,725,242	
(H) 収益分配金		0		0
次期繰越損益金(G+H)	△	105,749,109	△1,261,725,242	
追加信託差損益金	△	140,623,612	△	209,339,526
(配当等相当額)	(220,845,104)	(237,715,962)
(売買損益相当額)	(△)	361,468,716)	(△)	447,055,488)
分配準備積立金		68,210,788		67,760,977
繰越損益金	△	33,336,285	△1,120,146,693	

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 収益分配金

決算期	第11期	第12期
(a) 配当等収益(費用控除後)	0円	5,078,460円
(b) 有価証券等損益額(費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円	0円
(c) 信託約款に規定する収益調整金	220,845,104円	237,715,962円
(d) 信託約款に規定する分配準備積立金	68,210,788円	62,682,517円
分配対象収益(a+b+c+d)	289,055,892円	305,476,939円
分配対象収益(1万口当たり)	247円	252円
分配金額	0円	0円
分配金額(1万口当たり)	0円	0円

〈お知らせ〉

該当事項はございません。

用語解説

○資産、負債、元本及び基準価額の状況は、期末における資産、負債、元本及び基準価額の計算過程を表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
資産	ファンドが保有する財産の合計です。
コール・ローン等	金融機関向けの安全性の高い短期貸付運用などの残高です。
各種有価証券等(評価額)	組入れた株式・債券・ファンドなどの評価金額です。
未収入金	入金が予定されている有価証券の売却代金などです。
未収配当金	入金が予定されている株式の配当金等です。
未収利息	入金が予定されているコール・ローン等の利息や債券の利息の合計です。
負債	支払いが予定されている金額の合計です。
未払収益分配金	期末時点で支払いが予定されている収益分配金です。
未払解約金	支払いが予定されている解約金です。
未払信託報酬	支払いが予定されている信託報酬の額です。
その他未払費用	支払いが予定されている監査費用、その他の費用です。
純資産総額(資産－負債)	ファンドが保有する財産の合計から支払いが予定されている金額の合計を差し引いたものです。
元本	ファンド全体の元本残高です。
次期繰越損益金	純資産総額と元本の差額(翌期に繰り越す損益金の合計額)です。
受益権総口数	受益者が保有する受益権口数の合計です。
1(万)口当たり基準価額	1(万)口当たりのファンドの時価です。

用語解説

○損益の状況は、期中にファンドがどのような収益や損失を計上したかを表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
配当等収益	ファンドが受取った配当金・利息等の合計です。
受取配当金	保有する株式等の配当金等です。
受取利息	債券、コール・ローン等の利息等です。
有価証券売買損益	有価証券の売買損益と期末の評価損益の合計額です。
売買益	売買益と期末評価益の合計です。
売買損	売買損と期末評価損の合計です。
信託報酬等	信託報酬のほか保管費用、監査費用、その他の費用と、それに掛かる消費税等相当額です。
当期損益金	当期における収支合計です。
前期繰越損益金	前期分の分配準備積立金と繰越損益金の合計額から当期中の解約に対する持分を控除した金額です。
追加信託差損益金	受益者がファンドに払い込んだ金額と元本との差額です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
計	収益分配前の期中の収支の総合計です。
収益分配金	期中の分配可能額から受益者に支払われる分配金です。
次期繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の合計です。
追加信託差損益金	翌期に繰り越す追加信託差損益金です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
分配準備積立金	翌期に繰り越す分配準備積立金の額です。
繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の額です。

日本連続増配成長株マザーファンド

マザーファンドの運用報告書につきましては、ベビーファンドの運用報告書と作成対象期間が異なる場合には、データ・コメント等に不一致が生じることがありますのでご了承ください。

日本連続増配成長株マザーファンド 第3期 運用状況のご報告 決算日：2018年12月17日

当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	日本の連続増配銘柄（一定期間にわたり1株当たりの普通配当金が每期増加している企業の株式をいいます。）に投資を行います。
主要投資対象	日本の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
投資制限	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		東証株価指数 (TOPIX) (参考指数)		株式 組入比率	株式 先物比率	純資産 総額
	騰落	中率	騰落	中率			
(設定日) 2015年12月28日	円 10,000	% —	ポイント 1,516.19	% —	% —	% —	百万円 2,700
1期(2016年12月15日)	10,038	0.4	1,542.72	1.7	95.0	—	17,248
2期(2017年12月15日)	12,533	24.9	1,793.47	16.3	96.2	—	7,454
3期(2018年12月17日)	12,019	△4.1	1,594.20	△11.1	95.1	—	16,980

(注) 基準価額は1万円当たり。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額は当初設定元本。

(注) 東証株価指数 (TOPIX) は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。設定日の東証株価指数 (TOPIX) は設定日前営業日の終値です。

(注) 株式先物比率=買建比率-売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		東証株価指数 (TOPIX) (参考指数)		株式 組入比率	株式 先物比率
	騰落	率	騰落	率		
(期首) 2017年12月15日	円 12,533	% —	ポイント 1,793.47	% —	% 96.2	% —
12月末	12,630	0.8	1,817.56	1.3	96.0	—
2018年1月末	12,686	1.2	1,836.71	2.4	95.1	—
2月末	12,397	△1.1	1,768.24	△1.4	94.9	—
3月末	12,570	0.3	1,716.30	△4.3	95.6	—
4月末	12,922	3.1	1,777.23	△0.9	96.0	—
5月末	13,077	4.3	1,747.45	△2.6	96.0	—
6月末	13,022	3.9	1,730.89	△3.5	95.6	—
7月末	13,047	4.1	1,753.29	△2.2	96.0	—
8月末	13,056	4.2	1,735.35	△3.2	95.8	—
9月末	13,714	9.4	1,817.25	1.3	95.8	—
10月末	12,154	△3.0	1,646.12	△8.2	94.4	—
11月末	12,522	△0.1	1,667.45	△7.0	94.5	—
(期末) 2018年12月17日	12,019	△4.1	1,594.20	△11.1	95.1	—

(注) 騰落率は期首比。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2017年12月16日～2018年12月17日)



(注) 参考指数は、東証株価指数（TOPIX）です。

(注) 参考指数は、期首（2017年12月15日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・業種配分では、化学、繊維製品、精密機器などが基準価額にプラスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、タカラバイオ、ゴールドウイン、ドンキホーテホールディングスなどが基準価額にプラスに寄与しました。

(主なマイナス要因)

- ・業種配分では、機械、卸売業、電気機器などが基準価額にマイナスに影響しました。
- ・個別銘柄では、ZOZO（旧スタートトゥデイ）、ミスミグループ本社、富士通ゼネラルなどが基準価額にマイナスに影響しました。

投資環境

(2017年12月16日～2018年12月17日)

国内株式市場は、期首から2018年1月下旬にかけては、世界的な景気拡大や良好な国内企業業績、米国の法人税減税施行などが好感され上昇しました。しかし、米国の利上げペースの加速懸念や通商政策に対する不透明感などを背景に、3月下旬にかけて下落しました。その後は、米中貿易摩擦への警戒や国内企業の業績拡大に対する期待などが交錯し、10月上旬にかけて一進一退の展開となりました。期末にかけては、米中貿易摩擦の激化を背景とした世界的な景気減速や企業業績に対する先行き不透明感の高まりなどを受けて、投資家のリスク回避姿勢が強まり、国内株式市場は大幅に下落しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2017年12月16日～2018年12月17日)

当ファンドの運用につきましては、連続増配期間の長さ、時価総額、信用リスク、流動性等を考慮してユニバースを構築し、その中から、成長性或連続増配の持続可能性等を勘案しポートフォリオを構築しました。当期は、堅調な企業業績を受けて企業が販売促進費などを積極的に投下でき業績拡大が期待できると考えた電通やカカクコムなどを買い付けた一方、主力の医療機器の売上が株式市場の期待を下回ったシスメックスやプライベートブランドの立ち上がりが株式市場での期待を下回り成長期待が後退すると考えたZOOZなどを売却しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年12月16日～2018年12月17日)

当ファンドは特定のベンチマークを設けておりませんが、基準価額の騰落率は、参考指数としている東証株価指数(TOPIX)の騰落率を7.0%上回りました。詳細につきましては前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。

今後の運用方針

国内株式市場は、景気の先行きや企業業績見通しの下振れ懸念などが高まる中、当面、値動きの荒い不安定な展開になると想定します。一方、株式需給面では日銀の上場投資信託(ETF)買入れや上場企業による自社株買いなどに支えられると予想されるため、国内株式市場は値動きが荒い展開が一巡し、投資家心理が落ち着いた後は、反発をうかがう展開になると考えます。

当ファンドの運用につきましては、連続増配期間の長さ、時価総額、信用リスク、流動性等を考慮してユニバースを構築し、その中から、成長性或連続増配の持続可能性等を勘案しポートフォリオを構築します。個別銘柄につきましては、相対的に業績推移に安心感のある銘柄の中から、株価下落で割安感が強まっていると考えられる銘柄を買い付けていく方針です。また、決算などで配当金の据え置きや減額を発表した銘柄につきましては速やかに売却する方針です。

※文中の投資行動は、個別銘柄の売買等いかなる投資行動も推奨するものではありません。

○1万口当たりの費用明細

(2017年12月16日～2018年12月17日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 26 (26)	% 0.202 (0.202)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) そ の 他 費 用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 その他は、金銭信託支払手数料
合 計	26	0.202	
期中の平均基準価額は、12,816円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2017年12月16日～2018年12月17日)

株式

国 内	上 場	買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
		千株	千円	千株	千円
		4,363 (200)	15,320,140 (-)	1,512	5,164,794

(注) 金額は受渡代金。

(注) 単位未満は切捨て。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2017年12月16日～2018年12月17日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	20,484,934千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	11,918,763千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.71

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2017年12月16日～2018年12月17日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	15,320	6,178	40.3	5,164	1,932	37.4

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	25,175千円
うち利害関係人への支払額 (B)	9,199千円
(B) / (A)	36.5%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

○組入資産の明細

(2018年12月17日現在)

国内株式

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
建設業 (4.5%)			
ショーボンドホールディングス	26.4	64.3	579,343
東鉄工業	—	26.5	83,607
積水ハウス	20	40.4	67,286
食料品 (3.6%)			
アサヒグループホールディングス	38.8	68.8	311,870
日本たばこ産業	21.9	95.6	274,467
繊維製品 (1.2%)			
ゴールドウイン	—	15.3	190,944
化学 (17.2%)			
積水化学工業	—	117.2	205,217
日油	12.5	51.7	198,528
花王	35	75.3	615,803
大日本塗料	13.6	—	—
日本ペイントホールディングス	10.3	—	—
シーズ・ホールディングス	20.6	—	—

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
医薬品 (3.0%)			
ポーラ・オルビスホールディングス	15.5	—	—
小林製薬	29.1	46.8	352,872
タカラバイオ	50.7	221.8	623,701
ユニ・チャーム	45.8	225.1	786,949
医薬品 (3.0%)			
科研製薬	10.4	—	—
ロート製薬	90	140.5	477,700
ゴム製品 (2.5%)			
ブリヂストン	8.1	87.1	395,346
ガラス・土石製品 (0.7%)			
ニチアス	51	57.2	113,198
金属製品 (1.2%)			
リンナイ	12.4	20.1	149,745
パイオラックス	—	17.2	41,073
機械 (5.4%)			
三井海洋開発	13.6	82.8	205,012

日本連続増配成長株マザーファンド

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
サトーホールディングス	—	47.1	133,716
栗田工業	42.7	72	204,984
福島工業	7.4	15.9	59,704
竹内製作所	30.5	141.7	270,930
グローリー	13.3	—	—
スター精密	44.6	—	—
電気機器 (1.6%)			
エレコム	14.4	—	—
富士通ゼネラル	34.5	168.3	251,945
シスメックス	22.8	—	—
輸送用機器 (3.3%)			
極東開発工業	—	66.1	100,009
スズキ	44.8	79.5	436,137
精密機器 (3.8%)			
テルモ	27.6	96.9	616,187
陸運業 (3.4%)			
西日本旅客鉄道	10.7	16.4	130,954
東海旅客鉄道	2.4	11.2	263,032
ハマキョウレックス	15	40.7	152,625
倉庫・運輸関連業 (0.6%)			
トランコム	—	6.6	42,174
上組	14.3	21.9	52,954
情報・通信業 (12.6%)			
NECネットエスアイ	32.1	22.2	54,345
コーエーテクモホールディングス	36.4	—	—
GMOペイメントゲートウェイ	12.7	72.1	419,622
伊藤忠テクノソリューションズ	35.1	209.4	459,214
大塚商会	22.1	61.9	211,079
東京放送ホールディングス	—	95.9	179,333
日本電信電話	15.7	33.1	156,463
KDDI	64.5	57.1	152,200
光通信	9.2	21.8	405,480
卸売業 (7.9%)			
アルフレッサ ホールディングス	59.4	107.2	328,032
アズワン	13.1	41.6	325,312
シークス	19.8	—	—
長瀬産業	18.3	107.4	168,618
豊田通商	47.6	82.6	286,209

銘柄	期首(前期末)	当 期 末		
	株 数	株 数	評 価 額	
	千株	千株	千円	
ミスミグループ本社	34.9	71.1	170,497	
小売業 (10.8%)				
サンエー	9.1	14.5	67,062	
MonotaRO	—	64.1	194,864	
J. フロント リテイリング	45.4	197.3	292,793	
ZOZO	44.3	—	—	
物語コーポレーション	—	6.8	67,660	
コスモス薬品	—	6.4	132,288	
ツルハホールディングス	3.7	24	270,960	
ドンキホーテホールディングス	44.1	52.2	380,538	
ユニー・ファミリーマートホールディングス	14.1	—	—	
しまむら	2.8	—	—	
イズミ	—	10.7	62,060	
ニトリホールディングス	14.8	18.3	270,474	
証券・商品先物取引業 (0.8%)				
FPG	—	109.5	126,253	
その他金融業 (4.6%)				
芙蓉総合リース	5.6	15.3	90,270	
興銀リース	12.9	39.7	101,195	
東京センチュリー	8.4	20.9	104,291	
リコーリース	9.3	14.2	47,144	
オリックス	86.7	165.1	284,880	
三菱UFJリース	136.9	216.2	118,261	
不動産業 (1.1%)				
スターツコーポレーション	—	70.5	178,506	
サービス業 (10.2%)				
日本M&Aセンター	—	142.7	351,755	
カカコム	—	157.5	360,517	
エムスリー	33.4	127.5	206,932	
電通	—	72.4	379,376	
みらかホールディングス	20.2	—	—	
ユー・エス・エス	27.1	41.9	82,752	
リログループ	40.9	66.5	191,054	
イオンディライト	12.2	19.3	73,533	
合 計	株 数・金 額	1,843	4,894	16,139,849
	銘柄数<比率>	66	68	<95.1%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2018年12月17日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 16,139,849	% 95.1
コール・ローン等、その他	840,198	4.9
投資信託財産総額	16,980,047	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年12月17日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	16,980,047,802
コール・ローン等	832,887,377
株式(評価額)	16,139,849,900
未収配当金	7,310,525
(B) 負債	4,419
未払利息	1,690
その他未払費用	2,729
(C) 純資産総額(A-B)	16,980,043,383
元本	14,127,174,491
次期繰越損益金	2,852,868,892
(D) 受益権総口数	14,127,174,491口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,019円

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、1,2019円です。

(注) 当ファンドの期首元本額は5,947,996,316円、期中追加設定元本額は8,879,590,779円、期中一部解約元本額は700,412,604円です。

(注) 当親ファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額は、以下の通りです。

日本連続増配成長株オープン	8,671,048,067円
日本連続増配成長株ファンド18-07(繰上償還条項付)	5,449,025,883円
D C 日本連続増配成長株オープン	7,100,541円

○損益の状況 (2017年12月16日～2018年12月17日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	170,003,941
受取配当金	170,374,513
受取利息	2,379
その他収益金	1,484
支払利息	△ 374,435
(B) 有価証券売買損益	△1,185,226,043
売買益	934,150,747
売買損	△2,119,376,790
(C) その他費用等	△ 51,559
(D) 当期損益金(A+B+C)	△1,015,273,661
(E) 前期繰越損益金	1,506,755,728
(F) 追加信託差損益金	2,601,364,221
(G) 解約差損益金	△ 239,977,396
(H) 計(D+E+F+G)	2,852,868,892
次期繰越損益金(H)	2,852,868,892

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

〈お知らせ〉

該当事項はございません。